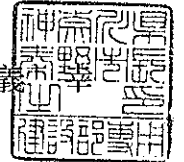


FNo. 7・0・0 (甲)

平成19年5月 7 日

国土交通省道路局長 様

秦野市長 古 谷 義



中期的な計画の作成にあたっての意見の提出について (回答)

貴職におかれましては、日ごろより市政の運営に、ご理解、ご協力いただきありがとうございます。

さて、平成19年4月2日付け国道企114号にて依頼のあった標記件について別紙のとおり回答いたします。

1 回答書 別紙のとおり

事務担当 秦野市建設部
道路公園整備課 施設計画班です。
電話0463-82-9636

中期的な計画に当たっての調査回答書

I 秦野市の現状と将来的に目指す姿

- 1 秦野市は、丹沢の山々に囲まれたみどり豊かな環境に恵まれており、平成19年現在で約16万8千人の市民が居住し、大規模な製造関連の工場など、産業の集積も高く、居住、就業及び生活のバランスのとれた都市を目指す姿として着実に発展しています。

市民意識においては、交通問題への関心は高く、日常的な道路混雑、交通渋滞に起因する市民の足であるバスの定時性の低下及び自転車走行や歩行環境の不十分箇所の改善など、早期に着手すべき問題が提起されています。

- 2 秦野市の広域的な交通施設は、高速交通体系として東名高速道路が市城南東部を横断し、秦野中井インターチェンジが開設され、東京、横浜などへの人や物の高速移動を可能としており、市域中心部を東西に横断する一般国道246号と共に都市間移動の柱となっています。

しかし、東名高速道路は週末を中心に、また、国道246号もその機能を補完する主要地方道平塚秦野線等の整備が進んでいるものの慢性的な渋滞を起しており、市民生活に多大な支障をきたしております。

このため、国の施策として事業化されている第二東名高速道路や国道246号バイパスの整備は、東名高速道路秦野中井インターチェンジと第二東名高速道路秦野インターチェンジ（仮称）を、現国道246号を経由して結ばれることとなり、付随する都市計画道路を連動して整備することで、本市中心市街地への通過交通の流入を抑制し、物流の更なる時間短縮、地域交流の促進とともに、沿道の住環境改善に大きく貢献するものとの期待も高く、早急な対応が望まれるところです。

- 3 市街地内の幹線道路網は、小田急小田原線の4駅周辺を中心に、朝夕の通勤時間帯においては、通行が飽和状態となる中で、生活道路が抜け道となるなど、歩行者等の安全確保が十分とは言えない状況下にあります。

渋滞の解消には、市域内道路網の改善、ネットワーク化や歩道設置による歩車の分離が必要であり、その結果として実現する車両のスムーズな走行は、市民一人ひとりの「ゆとりのある行動」を生むこととなり、歩行者保護の優先性をより

確実にし、交通安全性の向上が図れるという好循環を生み出すものと確信しています。また、交通流の円滑化推進によってNox,CO₂削減も可能となり、自然環境の保護、地球温暖化の防止にも寄与することから、生活道路の改良を含め、目指すべきまちづくりの実現には、まだ多くの道路整備が必要と考えています。

4 秦野市の都市計画道路の状況（平成19年4月1日現在）

全体路線数：38路線、96,260メートル

整備済み延長 33,435メートル

整備率 34.73パーセント

都市計画決定から、30数年経過している路線が多い中であっても整備率が低迷しております。

都市計画道路は、市内の主要拠点への移動手段として、また、市民生活の基幹道路として安全、安心に移動できる道路であるとともに、道路機能面のみに留まらず、沿線の土地利用にも大きな影響があり、中心市街地の活性化や市街地縁辺部への企業誘致など、まちづくりの根幹となる地域の活性化や就労機会の増大に繋がり、都市計画道路を整備することのメリットは、市街地内にまだ多くの未利用地を持つ秦野市にとっては大きなものと考えます。今後も道路整備に合わせた積極的、統括的なまちづくりを推進し、まちづくり交付金事業なども活用していきたいと考えております。

昨今の逼迫する財政状況の中、地方都市が事業実施を図る都市計画道路の補助採択枠の拡大とまちづくり交付金事業の継続を引き続きお願いいたします。

5 秦野市の生活道路の状況

（平成19年4月1日現在）

全体路線数：819路線、593,686メートル

整備済み延長 358,353メートル

整備率 60.36パーセント

市制施行以来50年を超える長い年月をかけて道路改良事業を実施してまいりましたが、整備率は、まだ60.36パーセントであり、改善すべき道路も多数あり、市民からの要望も高い状況にあります。幅員的には、4.5メートルから6.0メートル未満の道路の占める割合が約90パーセントで、緊急車両の進入など市民が生活する上で、最低限必要な生活基盤施設であると認識し、事業実施に鋭意努めているところではありますが、この様な小規模道路に対する国の補助メニューが特定な地域に限られているため、市単独事業費のみで対応するには限り

があることから、小規模道路に対する新たな支援対策の御検討をお願いしたいと思いをします。

6 総合計画上のプロジェクト

本市の中心部を流れる水無川沿いに「風の道」構想があります。

川を中心とし、その両岸の道路機能充実による交通処理能力の向上、散策道など市民の憩い場の創出、潤いのある景観の形成及び防災機能として災害時の延焼防止、避難場所の確保、また、環境の側面からヒートアイランド防止、大気汚染防止など、秦野市の顔として、多くの機能を有する総合プロジェクトとして取り組むこととしています。

しかし、現時点での水無川沿線は、高水敷に設けられた「みずなし川緑地」が都市空間としての機能を満たすものの、市街地を南北に分断し、主要な6箇所の橋が架かる交差点部が、各々交通のネック箇所となり、渋滞の発生原因となっています。

プロジェクトの方向としては、水無川右岸、左岸の連続的な道路のハード面の整備はもとより、ソフト面からも一方通行化の検討や PTPS（公共交通優先システム）の導入なども視野に入れた検討を図っていきたいと考えています。また、緑化の重点地区であることから、今後も遠景となる丹沢山塊の緑に加え、みずなし川緑地を含め、手で触れることの出来る近景の緑を充実させ、みどりの景観整備を図るなど、防災面、環境面と合わせてまちづくりの目標として考えておりますので、地方都市の掲げる重点事業に対し、区域的にも期間的にも集中した、地域個性の創出を促進する支援制度の充実をお願いします。

II 早期に対応すべき具体的な整備策

1 重点化を進める上で特に優先度の高い政策

(1) 防災対策

- ア 災害時の物資輸送の要になる緊急輸送道路の重点的な整備。
- イ 無電柱化の促進による、歩行空間、電気通信網の確保。

(2) 環境対策

- ア 国道246号の慢性的な渋滞を、バイパスの整備等により緩和してNox,CO₂の削減。
- イ 緑化推進によるヒートアイランド化防止。

(3) 安全対策

- ア 交差点構造の見直し、歩道の整備（拡幅・無電柱化）により安全で快適な歩行空間の確保。
- イ 国道246号の慢性的な渋滞を、第二東名高速道路、国道246号バイパスの整備等により、通過車両の市街地侵入防止による安全確保。

2 事業の効率化の徹底重視

(1) 計画段階からの市民意向把握

- ア 道路を含めたまちづくり、沿道の活性化事業。
- イ 市内の都市計画道路及び生活道路の整備についても、市民の意向を的確に把握し、整備目的を明確にした上で、事業の投資効果、整備水準の明確化。

(2) 中長期の計画等策定

- ア 各道路管理者、交通管理者及び占用企業者等関係機関との調整の徹底を図り、可能な限り一体の事業と捉えた上での事業実施。

3 財源の確保

(1) 道路特定財源の継続

- ア 小規模な生活道路の改善事業に対する財源の確保。国県に対する制度化の要望。
- イ まちづくり交付金事業の有益性を生かした、まちづくりの一環としての面的道路整備の推進。まちづくり交付金事業への更なる道路特定財源の投入要望。
- ウ 交差点改良事業等生活と安全に密着した地方道路整備事業臨時交付金の採

択枠拡大推進をお願いしたい。

Ⅲ 具体的な整備策に対する特段の要望

神奈川県内における第二東名高速道路事業許可が平成18年3月31日付けでされております。

幹線道路のネットワーク化を図ると共に、利便性の一層の向上のために、この完成時期に合わせ東名高速道路秦野中井インターチェンジと第二東名高速道路秦野インターチェンジ（仮称）を結ぶ国道246号バイパス整備の早期事業化をお願い致します。

秦野市民のみならず、神奈川県民また広域的には国民の生活、環境対策に大きく寄与することを考え早期の整備を強く要望致します。